

Sun Fire X4800 M2 サーバー

ご使用の手引き

このマニュアルでは、Oracle Sun Fire X4800 M2 サーバーに最初に電源を投入して起動するための最小限の手順について説明します。

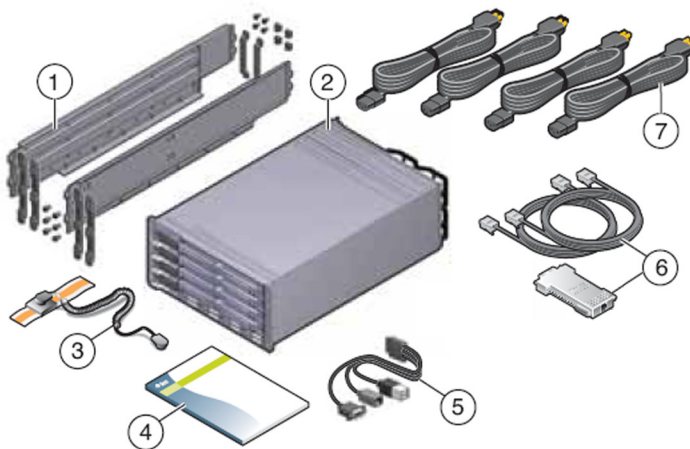
設置に関する詳細な情報については、次の Web サイトから入手できる『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html

製品ドキュメントの詳細は、このドキュメントの「この製品のドキュメント」を参照してください。

出荷キットの内容

Oracle の Sun Fire X4800 M2 サーバーは、安全性に関するドキュメントと、構成に合わせて注文したコンポーネントと共に出荷されます。オプションのコンポーネントまたはラックの設置装置は別に出荷されることがあります。



図の凡例

- 1 ラック搭載キットと出荷用留め具キット
- 2 サーバー
- 3 静電気防止用リストストラップ
- 4 安全性に関するドキュメント
- 5 マルチポートケーブル
- 6 RJ-45/DB-9 クロスアダプタ (540-2345)
- 7 電源ケーブル

ドキュメントおよびメディアキット

ドキュメントおよびメディアキットは、注文が可能なオプションです。このキットには、インストールおよび法律に関するドキュメント、お使いのシステムのツールとドライバ、Oracle Hardware Installation Assistant ソフトウェア、および Oracle VTS Bootable Diagnostics を格納した 1 枚または複数枚の DVD が含まれます。Documentation and Media Kit DVD は、Oracle eDelivery サイト (<http://edelivery.oracle.com>) でいつでも注文できます。

また、次のサイトから、ドキュメントライブラリ全体をダウンロードしたり、サーバーのソフトウェアにアクセスしたりできます。

- ドキュメントについては、http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html を参照してください。
- ソフトウェアについては、<http://support.oracle.com> を参照してください。

安全性とコンプライアンスに関する情報

インストールを実行する前に、Sun Fire X4800 M2 サーバーについて、安全性の情報が記載された次のドキュメントを参照してください。

- 『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』 - 出荷品一式に含まれる印刷版マニュアル。
- 『Sun Fire X4800 M2 Server Safety and Compliance Guide』 - Sun ドキュメント Web サイトからオンラインで入手可能。

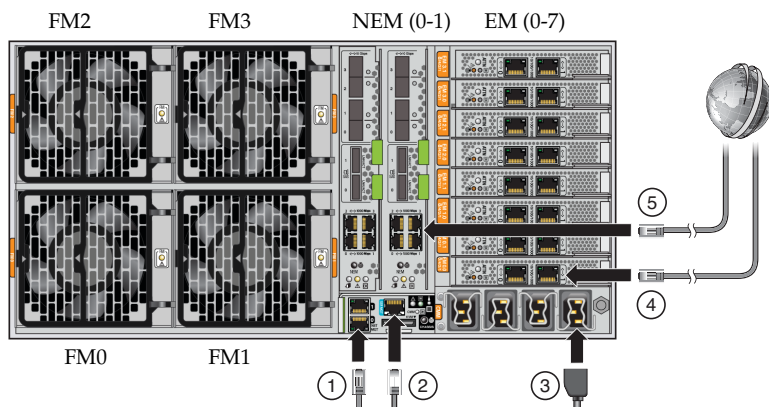
▼ オプションのコンポーネントを取り付ける

サーバーをラックに設置する前に、そのサーバーに合わせて注文し、工場出荷時に設置されなかったオプションのコンポーネントがあれば、最初に設置します。オプションのコンポーネントを取り付ける方法については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。

▼ ラックへのシステムの取り付け

ラック取り付け方法については、レールキットに付属のドキュメント、およびオンラインの『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

▼ ケーブルの接続



図の凡例

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | NET MGT ポート |
| 2 | SER MGT ポート [SER MGTほおと] |
| 3 | AC 差し込み口 |
| 4 | PCIe EM |
| 5 | ネットワーク拡張モジュール (NEM) |

1. (推奨) NET MGT ポートと SP に接続されるネットワークを Ethernet ケーブルで接続します。この手順は、データネットワークではなく管理ネットワークで行う必要があります。

SER MGT ポートを使用してシステムの初期構成を行なったあと、通常、SP およびホストとの通信はこの Ethernet インタフェースを介して行われます。

2. サーバーの SER MGT ポートと端末デバイスとを、RJ-45 ケーブルで接続します。

この接続で、サービスプロセッサ (SP) との最初の通信が行われます。このデバイスの通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットにします。ヌルモデム構成が必要です。つまり、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になるようにクロスされます。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用して、ヌルモデム構成を実現できます。

データネットワークとの通信には、PCIe EM とネットワーク拡張モジュール (4 および 5) が使用されます。接続オプションについては、『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』または『Oracle Integrated Lights Out Management (ILOM) 4800 補足マニュアル Sun Fire X4800 M2 サーバー』を参照してください。

▼ 電源コードの接続

1. 電源コードを電源装置および別個の電源に接続します。

冗長性を与えるために、4 本の電源ケーブルを 2 つの別個の分岐回路に接続します。2 本の電源コードを 1 つの分岐回路に接続し、他の 2 本を別の分岐回路に接続します。

電源が供給されると、SP が初期化され、電源装置 LED が点灯し、緑色の電源/OK LED が点滅します。

数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。ホストはまだ初期化されておらず、電源も入っていません。

Oracle ILOM に接続する

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用して、サーバーの起動、ブート、および管理を行うことができます。ILOM に接続するには、次の 2 つの方法があります。

- 次の節で説明する方法を使用して、シリアル接続 (SER MGT ポート) で SP に接続します。
- アドレスが割り当てられている場合は DHCP または静的 IP アドレスを使用して、Ethernet 接続 (NET MGT ポート) で SP に接続する

シリアル接続を使用して SP に接続すると、SP の DHCP アドレスを表示するか、SP を設定して静的 IP アドレスを使用することができます (デフォルトは DHCP)。次に NET MGT ポートを使用して、IP アドレスで SP にアクセスすることができます。

ILOM を使用して Sun Fire X3.0 サーバーを設定および管理する方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 補足マニュアル Sun Fire X4800 M2 サーバー』および Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントコレクション (以前の Sun Integrated Lights Out Manager 4800 ドキュメントコレクション) を参照してください。

▼ シリアル接続を使用した Oracle ILOM への接続

1. マルチポートケーブル上のシリアルコネクタに、シリアルケーブルを接続します。
2. 端末デバイスと ILOM の間に接続を作成するには、端末デバイスの Enter を押します。
3. ILOM にログインします。
デフォルトのユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
4. シリアルコンソールを起動するには、コマンド `start /SP/console` を使用します。

▼サーバーへの主電源の投入

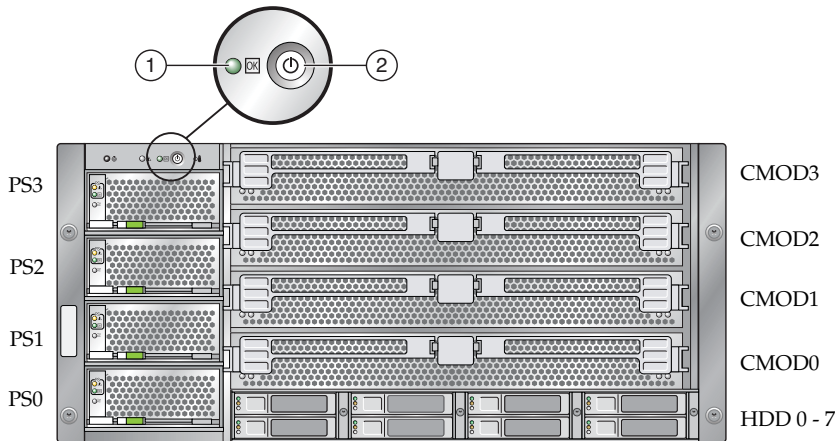


注意 – すべてのファン、コンポーネント、またはコンポーネントフィルターを取り付けるまでサーバーを動作させないでください。適切な冷却メカニズムがない状態で動作させると、サーバーのコンポーネントに深刻な損傷を与えることがあります。

1. 電源コードが接続されていること、およびスタンバイ電源が入っていることを確認します。

スタンバイ電源モードでは、フロントパネルの電源/OK LED が点滅します。

この時点では、スタンバイ電源はサービスプロセッサと電源装置のファンにのみ供給されます。プラットフォームオペレーティングシステムをインストールする準備ができるまでは、電源ボタンを押さないでください。



図の凡例

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 電源/OK LED |
| 2 | 電源ボタン |

2. フロントパネルにある、埋め込み式の電源ボタンを押して離します。

主電源がフルサーバーに適用されると、電源ボタンの隣にある電源/OK LED が点灯し、そのまま点灯しつづけます。

注 – サーバーの電源を最初に入れる場合には、電源投入時の自己診断テスト (POST) が完了するまで数分かかることがあります。

3. 『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』に記載されているように、ソフトウェアの初期設定作業を続行します。

▼ファームウェアの更新

システム BIOS と Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェアをアップグレードする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant の使用をお勧めします。OHIA は使いやすく、ドキュメントおよびメディアキット、または次のサイトから入手できます。

<http://support.oracle.com>

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia&id=homepage>

Oracle Hardware Installation Assistant を使用せずにシステム BIOS および ILOM ファームウェアをアップグレードする方法については、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html#ilom> の ILOM ドキュメントを参照してください。

▼プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定

ご使用のサーバーに合わせて、インストール済みのオペレーティングシステム (OS) を構成したり、サポートされる OS をインストールしたりできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用して、(OS に関係なく) ファームウェアを更新し、Linux または Windows OS をインストールすることをお勧めします。各オペレーティングシステムをインストールする手順については、「この製品のドキュメント」の OS 設置マニュアルを参照してください。必要に応じて、次の手順を使用してドライバとパッチを入手します。

▼ オペレーティングシステムドライバとパッチの取得

1. <http://support.oracle.com> にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「Patches and Updates (パッチと更新)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。
5. 「Product? [Is (製品は?)]」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4800 M2) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? [Is (リリースは?)]」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示されたウィンドウで、製品フォルダアイコンの近くにある三角形 (>) をクリックして選択肢を表示し、対象となるリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。
製品のダウンロードのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. 該当するパッチ名 (たとえば、Sun Fire X4800 M2 SW 1.0 リリース向けのパッチ 12345678) を選択します。
10. 表示された右側の区画で、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

サービスとテクニカルサポート

システムのサービスを受けるために、ハードウェアのシリアル番号が必要になる場合があります。システムのシリアル番号を見つけるには、Oracle ILOM コマンドの `show /SYS` を使用するか、システムのシリアル番号ラベルの記載場所に関する情報について『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

サービスとテクニカルサポートについては、次の URL にアクセスします。

<http://www.oracle.com/us/corporate/contact/global-070511.html>

この製品のドキュメント

次の表に、新しいシステムを設置する際の作業順序と同様の順序でドキュメントを示します。左側の作業について、右側に示した対応するドキュメントを参照してください。すべてのドキュメントの最新バージョンは、次の Oracle ドキュメント Web サイトから入手できます:

http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html

タスク	ドキュメント
安全のための情報を確認する。	『Sun Fire X4800 M2 Server Safety and Compliance Guide』 『Sun ハードウェアシステムの重要な安全性に関する情報』
既知の問題および回避方法を確認する。	『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』
ラックハードウェアを設置します。サーバーのケーブルを接続して電源を投入する。サービスプロセッサに接続し、ネットワーク設定を決定する。インストール済みの OS を設定します。	『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』
Oracle Solaris、Linux、Windows OS のインストールおよび構成を行うか、仮想マシンソフトウェアをインストールします。(Oracle VM や VMware など)。	『Sun Fire X4800 M2 サーバー Solaris OS 設置マニュアル』 『Sun Fire X4800 M2 サーバー Linux OS 設置マニュアル』 『Sun Fire X4800 M2 サーバー Windows OS 設置マニュアル』 『Sun Fire X4800 M2 サーバー Oracle 仮想マシン設置マニュアル』 『Sun Fire X4800 M2 サーバー仮想マシン設置マニュアル』 『Oracle Hardware Assistant ユーザーズガイド』
サーバーアカウントを管理し、アラートを監視、リモートアクセスとリダイレクトを設定し、コンポーネントのステータスとイベントログを表示する。	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800 M2 サーバー』
BIOS 設定と RAID 設定をカスタマイズする。ハードウェアコンポーネントの取り外しおよび交換を行う。サーバーの問題のトラブルシューティングと切り分けを行う。	『Sun Fire X4800 M2 サーバーサービスマニュアル』
システムの問題を診断する。	『Sun Fire X4800 M2 サーバー診断ガイド』

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

